



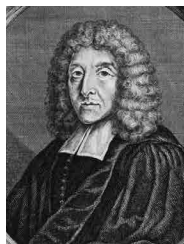
フランソワ・トレテイーニの神論

その神学的内容とスコラ的方法論

【大森講座36】

青木義紀 [著]

6月25日発売



17世紀のプロテスタント正統主義・スコラ主義は思弁的で無味乾燥と評されるが、果たしてそうか。代表的神学者でありジュネーヴで活動したトレテイーニ (François Turretini 1623-87) をとりあげ、宗教改革の偉大な発見を後代に継承する重要な結節点として位置づけると共に、その生涯を概観し、彼の神学思想の中でも特に神論に焦点を当てて再評価を試みる。

◆四六判・202頁・定価1430円

【目次より】

序論
第一章 思想的・歴史的背景
第二章 トレテイーニの背景と生涯
第三章 トレテイーニの『論駁神学綱要』とその方法論
第四章 トレテイーニの神論
第五章 トレテイーニと今後の課題
結論

著者 青木義紀 (あおき・よしのり)

1976年長野県生まれ。東京基督教大学卒業後、都下で開拓伝道に従事。その後、東京基督神学校、アメリカ・カルヴァン神学校、オランダ・プロテスタント神学大学大学院、ベルギー・ルーヴァン福音主義神学校で学ぶ。現在、日本同盟基督教団和泉福音教会牧師、東京基督教大学非常勤講師、お茶の水聖書学院講師。訳書：『改革派正統主義の神学』（教文館）、『広げて見る聖書・キリスト教歴史年表』、『地図で学ぶ宗教改革』（以上いのちのことは社）。

● 4月刊行

レヴィナスの時間論

『時間と他者』を読む

内田樹著

◆四六判・定価 2860 円

レヴィナス思想の戦後の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもって鳴る同書を徹底的に精読・注解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の〈希望の時間論〉が浮かび上がる



● 4月刊行

詩人は聖書をどのように表現したか

柴崎聰著

◆四六判・定価 2310 円

信仰者かつ優れた実作者である著者のみながしうる透徹した読み。16名の詩人。島崎藤村／三木露風／山村暮鳥／八木重吉／石原吉郎／安西均／島朝夫／高野喜久雄／片瀬博子／塔和子／澤村光博／高橋喜久晴／野村英夫／島崎光正／阪田寛夫／森田進。



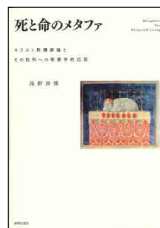
● 3月刊行

死と命のメタファ

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答 ◆A5判・定価 2970 円

浅野淳博著

聖書のメタファが語る、キリストの死に至る生き様の真の意味を解明し、それを今日いかなる語り方で伝えるかを考える。



● 3月刊行

ヤバい神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著・白田浩一訳 ◆四六判・定価 2420 円

旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に書かれているのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人々が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った異色作。



堀忠著

古代キリスト教言説史におけるレプラ

脱神話化と脱医学化に向けての試論 レビ記や福音書に登場するレプラとは何を指していたのか。この語はその後のキリスト教著作家たちによつてどのように用いられ、結果としていかにして中世から近代に至る概念史を形成するに至ったのか。膨大なギリシヤ語文献データベースを駆使して実証的な解明を試みた貴重な労作。

A5判・予価6000円

雨宮栄一著

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。

四六判・予価2700円

松本宣郎著

初期キリスト教の世界

〔仮題〕

ローマ帝国史の視点から初期キリスト教史研究の地平を精力的に拡大してきた著者の、研究史的回顧を含む11の論考・講演を収録。地中海世界に生きた人々の心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、多岐にわたる論点が浮かび上がつてきて興味尽きない。

四六判・予価3500円

ジャン・カルヴァン著／森川甫・吉田隆訳

共観福音書注解

下

マタイマルコルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

● 5月に出た本と雑誌

古代末期・

東方キリスト教論集

戸田聡著



キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳、そのほか著者が企図するヴェーパー『宗教学論集』全訳をめぐる諸論考など、常に優れた成果を生み出してきた研究者の歩みを示す27編。

◆ A5判・定価5775円

福音と世界

◆ 定価6600円

6月号 進化論との出会い

寄稿者：横山輝雄、碧海寿広、山本卓、佐藤清子、檜垣立哉、小原克博／小林剛、松谷信司／好評連載 C・J・サunders & A・ヤーパー、山口陽一、山崎ランサム和彦、宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、有住航

●先日、新たにゼロ歳の同居人を迎えて大わらわの拙宅に、友人たちが遊びに来てくれたときのこと。わたしの同居人より少し先輩、現四歳の友人が真っ先に見つけたのは、棚の上に置いてあるゴジラファイギュアのコレクションでした。コレクションといっても大したものではなく、昨年公開された『ゴジラvsキング』版ゴジラ、やはり昨年公開のアニメ『ゴジラSP』に登場するゴジラウルティマとアングラス、『シン・ゴジラ』に登場する通称・蒲田くん（ゴジラ第二形態）の計四体です（ミラーなラインナップで恥ずかしいのですが）。なかには壊れやすいものもあるので多少気をつかいつつ、夢中になってゴジラたちで遊ぶ友人の姿に、わたしは内心ほくそ笑んだのでした。振り返ってみれば、ゴジラの付き合いはずいぶん長くなります。物心ついたころには昭和シリーズをビデオで観ていましたし、ゴジラがメルトダウンして死を迎える平成シリーズの終幕『ゴジラvsデストロイア』（一九九五）を劇場で観た際には、子どもながらも一時代の終わりを感じたものです。おとなになってからも、観られるものはすべて観てきました。もちろん、核の恐怖を描き出した一作目（一九五四）をはじめ、すぐれたゴジラ批評や研究は多数存在し、わたしもそれなりにチェツ



クはしています。ただ、自ら論じる気になれないのは、とりもなおさずわたしにとつてゴジラは実在しているからなのでしょう。実在する友人を論評などしないように、ゴジラとはわたしにとつて、一緒に時をへていく友なのです。（堀）

●来年の渡辺禎雄版画カレンダーが「復活」（一九七五年）に決まりました。マグダラのマリアは主イエスから「マリア」と呼びかけられて復活者を認識します（ヨハネ二〇章）。この劇的な場面を静かな緊張を湛えた清澄な絵が余すところなく伝えていきます。発売は一〇月上旬。名入れは一〇〇枚以上から承ります。教会や会社の名を入れて贈物にも最適。ぜひご検討ください。（本体五〇〇円、名入れは初回のみ版下代五五〇〇円を頂戴します。）

福音と世界

2022年
7

特集・空になることケノシスの革命

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

空であること、この世界を発生させること

白石嘉治

神のケノシス・自己無化

宮本久雄

— 愛のケノシスと相生 —

中世民衆宗教運動における「空になること」

ケノシス」 — ローザンヌのアンリを

中心に —

池上俊一

身体をつうじた空無化（ケノシス）

中世の女性たちをめぐって

—— シモーヌ・ヴェイユのケノシス ——

労働における不条理の論理を構築する試み

—— シモーヌ・ヴェイユのケノシス ——

これ以上何もしないために

—— 都市の脱構成 ——

のためのノート

—— 五井健太郎 ——

【新連載】

フッド・スピリチュアルズ — インチンテラの霊性…山下壮起

【好評連載より】

◆ 教会に宿るマイクグレゴリオン 3 サンダース ヤーバー

◆ 「日本のキリスト教」を読む 4 ……山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 7 ……山崎ランサム和彦

◆ アジアの草の根平和の証し人に 10 宇井志緒利

◆ 間隙を思考する 非同時代性のために 16 ……田崎英明

◆ 古代イスラエル文学史序説 17 ……勝村弘也

◆ 霊性のエゴロジー あるいは「マリアリア」 19 村澤真保呂